2017年 4月　CoCo通信第105号

個個通信 Apr.

大倉山公園4月6日

ユキヤナギやボケが咲き、大倉山公園の桜も今年は長く楽しめました。新しい学年のスタートです。頑張りましょう。

個個港学舎　舎長　八木貴子

学習状況のお知らせ

新学年になり、本格的に授業も始まったことと思います。塾でも生徒規則を改訂し、自習、演習システムを充実させました。成績アップにつなげてください。

生徒規則の改訂版(自習、演習、諸経費の改訂)を同封しました。ご不明な点は八木までお問い合わせください。

旬！グリーンアスパラのレシピ

アスパラガスは地中海東部が原産とされるユリ科の植物で、地上に伸びてくる新芽の茎を食用とします。日本名は「オランダキジカクシ」となっていて、成長して葉が茂ると雉(きじ)が隠れるほどになるという事からだそうです。成分の一つ、アスパラギン酸はアミノ酸の一種で新陳代謝を促し、疲労回復やスタミナ増強に効果があるそうです。

「アスパラと新ジャガとベーコン炒め」

アスパラガスと新ジャガ、旬の取り合わせです。どちらもベーコンとの相性が良く、簡単にできる一品です。

グリーンアスパラ:2束、ジャガイモ:中2個、ベーコン:6枚、塩、コショウ、サラダ油:適量（4人分）

①グリーンアスパラは根元を切り落とし、ピーラーで下1/3の皮をむき、斜め切り　②新ジャガは、たわしで汚れを落とし1cmの拍子木切りにし水にさらす。③ジャガイモをラップに包み電子レンジ500Wで5分間加熱し火を通す。

④フライパンに油をいれ、ベーコンを炒める。⑤グリーンアスパラを加え、火が通ったらジャガイモを入れる。⑥塩、コショウで味を調え、盛り付ける。

个4月6日八木家メニュー

いろはに偉人裏話「よ」

「よ」吉田松陰(よしだしょういん)

吉田松陰と言えば、松下村塾を開いた聖人君子と思われますが、実はとんでもない、彼は相当クレイジーな人間だったのです。絵からは多少厳しそうな眼差しをしつつも、偉人らしく穏やかに見えますが、この人の人生は無茶の連続でした。

◆脱藩◆21歳の時、松陰は親友と東北へ視察旅行を計画します。しかし、自藩の長州藩に申請した通行手形がなかなか出ず、友と約束していた旅行日に間に合わなくなりそうでした。そこで彼は、死罪覚悟で脱藩します。いくら目的が東北の海防調査という意義深いものとはいえ…。

◆黒船で密航◆さて、彼が23歳の時、黒船が来航しました。当時は鎖国まっただ中。武士も農民も、畏敬と好奇の目でアメリカ艦隊を遠巻きに見ていました。そんななか彼はこれを「先進国に留学するチャンス！」と捉え、黒船に乗り込み密航させてもらおうと考えました。

特に周到な計画も立てずに、盗んだ小舟でアメリカ艦隊に横づけし、**乗り込みます。**当然追い返されました。彼は投獄され、読んだ一句、**「かくすれば　かくなるものと知りながら　やむにやまれぬ大和魂」**

◆松下村塾◆この後、吉田松蔭は仮釈放になって牢獄から出ます。そして、謹慎中の家で近所の人相手に講義を始めますが、これが**松下村塾**です。師匠が弟子に一方的に講義するのでなく、意見を交わしたり、文学だけでなく登山や水泳なども行ったようです。この松下村塾からは高杉晋作や久坂玄瑞、初代内閣総理大臣・伊藤博文など、幕末から明治の日本を主導した人材が育ちました。

◆安政の大獄◆しかし相変わらず過激な松陰を、弟子たちは心配し、血判状まで出して諭すのですが、そんな心暖かい弟子が生ぬるいと映ったのか、松陰は激昂し、弟子との絶交を決意します。極めつけが、ある疑いで幕府の役人に取り調べを受けた時のこと。疑い自体は軽微なモノだったので、取り調べは何事もなく終わるはずでした。しかし彼は、聞かれてもいない、老中暗殺計画を自ら暴露して、そのまま捕まり、斬首刑となりました。(享年29歳)

◆「諸君、狂いたまえ。」◆現状に満足せず、常識という壁をいつも自らの行動で壊してきた松陰らしい言葉です。そして、これは、ある人の言葉に似ています。Apple創立者のひとり、スティーブ・ジョブズ。彼もまた、現状に満足せず、常識という壁をいつも自らの行動で壊してきた人です。

ジョブズが次世代の若者たちに語った言葉は、**「Stay hungry, stay foolish.」(ハングリーであれ、愚かであれ。)**　ニュアンスは違いますが、彼らは同じことを語りかけているように思いませんか？